

2013年度のスチール缶リサイクル率は、92.9%

- 2012年度実績90.8%を更に上回り、過去最高を達成。
- 経済産業省・産業構造審議会のガイドライン目標を、13年連続で達成。

ガイドライン目標を「85%以上維持」から「90%以上維持」に上方修正

● 資源循環システムが確立している、スチール缶のリサイクル

- 飲料用スチール缶の分別・再資源化が社会に浸透しており、95%以上の自治体で分別収集の対象になっています。
- スチール缶スクラップは、ティンフリー・スチール化の進展により高品質のスクラップとして高い評価を受け、全国の鉄鋼メーカーで安定的に使用されています。
- 国内で発生するスチール缶スクラップは、国内で製鉄原料として再資源化されており、輸出に回っているものは基本的にありません。

● 高付加価値化・高品質化が進展している、スチール缶のリサイクル

- スチール缶の一部が、全国の鉄スクラップ取扱事業者において高付加価値化のためシュレッター処理され、スチール缶スクラップ(Cプレス・Cシュレッター)以外の規格で鉄鋼メーカーに受け入れられていることから、2009年度より、この一部を調査して再資源化重量に加えています。
- 2013年度のスチール缶リサイクル率が上昇(90.8% ⇒ 92.9%)した主な要因は、上記調査において、前年度比でより多くの再資源化重量を把握できたことによるものです。
- 異物の多いスチール缶スクラップは、鉄スクラップ取扱事業者によってシュレッター処理され高品質化が進展しています。異物重量の減少も、2013年度のスチール缶リサイクル率上昇の一因になっています。

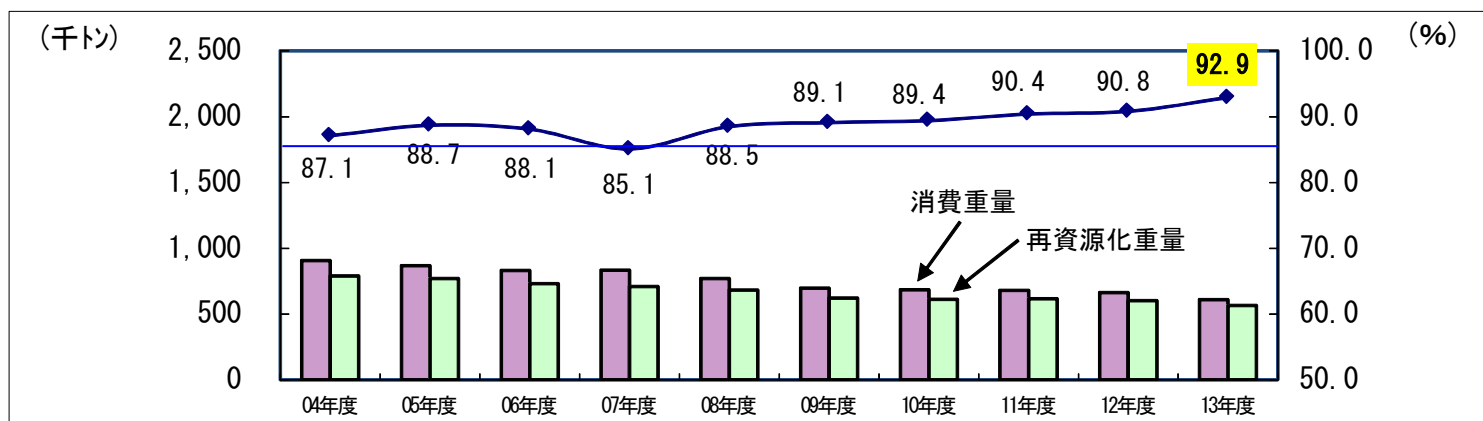
● 世界の粗鋼生産は、史上最高を記録。鉄スクラップも貴重な原料

- 世界の粗鋼生産は拡大を続けており(2013年は16億1千万トンと史上最高を記録)、底堅い需要が続いています。
- 日本の粗鋼生産量も年間1億トンを維持しており(2013年は1億1,060万トン)、鉄スクラップは自給できる貴重な原料として高い需要を維持しています。

● 上記を考慮し、経済産業省・産業構造審議会のガイドライン目標を「85%以上維持」から「90%以上維持」に上方修正することといたしました。

2013年スチール缶リサイクル率は、92.9%

スチール缶消費重量 610,566 千トンに対して再資源化重量 567,074 千トンでした。



	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
消費重量(千トン)	908	868	832	834	772	699	685	682	664	611
再資源化重量(千トン)	791	770	732	710	683	623	612	617	603	567
リサイクル率(%)	87.1	88.7	88.1	85.1	88.5	89.1	89.4	90.4	90.8	92.9

スチール缶リサイクル率の算出方法

スチール缶が販売されてから回収再利用されるまで3ヶ月かかると見做して、消費重量は2013年1～12月、回収・再資源化重量は2013年4月～2014年3月のデータにより算出しました。

$$\frac{\text{回収・再資源化重量}}{\text{消費重量}} = 92.9\%$$

$$\text{消費重量} = \text{出荷量} - \text{缶詰輸出量} + \text{缶詰輸入量} + \text{空缶輸入量}$$

$$\text{回収・再資源化重量} = \text{鉄鋼メーカー等購入量} - (\text{アルミ蓋重量} + \text{異物})$$

全国の電炉メーカー・高炉メーカー・鋳物メーカー・ペレットメーカー等にスチール缶スクラップ(Cプレス及びCシュレッダー)利用量に関するアンケート調査を実施、その回答を集計。

これに、全国の鉄スクラップ取扱事業者において、スチール缶スクラップがシュレッダー処理後、Cシュレッダー以外の規格で再資源化し、製鋼原料として売却した量を集計(調査により把握できた量のみ計上)。

上記集計値からスチール缶スクラップに含まれている飲料缶用アルミ蓋の重量及び水分等の異物を除いて算出。

<参考資料>

Cプレス価格推移

・Cプレスの中でも質の良いものは、H2より高値で取り引きされている事例も見られます。

H2・特級とCプレスの価格推移(2002年～2014年)



注. 東京製鐵株式会社公開データより作成 (<http://www.tokyosteel.co.jp/>)